

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

●理事会報告	1
●創立70周年記念行事盛大に挙行	2-3
●東京国際ブックフェア／委員会報告	4
●アイルランドの岩(1)	5
●楽譜のオハナシ⑦	6

理事会

理事会報告 2011年7月6日(水)

1. 予算推移報告
上四半期の予算状況が事務局から報告された。
ほぼ予算通りの推移で了承された。
2. 創立70周年記念事業への取り組み
実行委員会(長谷川総務委員長)から報告があり了承された。集客に関して各社で協力することとした。
3. 推薦理事検討
各理事からの意見を集約した結果、出版社からの参加を求めることとし、センゲージ ラーニング株式会社代表取締役の松村達生氏に依頼することとした。理事長に交渉を一任した。
4. 入会申込みの審査
ディ・エイチ・インターナショナル株式会社から出されていた入会申込みを審査した。旧国際書房から営業権を譲渡された点が討議の中心であったが、別会社であることで入会が承認された。
5. 理事長から
・協会の現状と将来の方向を見据えた委員会の再編の提案があった。総務委員会を中心に討議することとした。
・前から提案しているSIGの手始めとして電子出版関連のグループを立ち上げたい。
6. その他
今回の理事選挙(2013年)では、今回の選挙での当選順位2, 4, 6番目の理事会社である日本出版貿易(株)、(株)東亜ブック、(株)雄松堂書店の3社には被選挙権が無いことを確認した。

お知らせ

推薦理事決定

総会以降人選を進めてまいりました推薦理事ですが、このほど決定しましたのでお知らせいたします。

センゲージ ラーニング株式会社
代表取締役 松村 達生氏

新理事
松村氏

新入会員のご紹介

1. MK インターナショナル有限会社
埼玉県富士見市東みずほ台1-3-13-201
会員代表者 北村 雅子氏(代表取締役)
2. ディー・エイチ・インターナショナル株式会社
東京都千代田区神田神保町3-25 精和ビル7階
会員代表者 大川 博通氏(代表取締役社長)

会社紹介は次号に掲載予定です。

創立 70 周年記念行事盛大に挙行



7月15日金曜日、第一ホテル東京（新橋）において、日本洋書協会創立70周年記念行事が開催されました。当日は梅雨明けの猛暑にも拘らず大勢の来賓、協会OB、会員をお迎えし盛大に執り行われました。

第一部の記念講演会は、16:30から5階ラ・ローズの間において、文化庁長官近藤誠一氏をお招きし「文化：日本復活の鍵」と題する講演を頂きました。凡そ120名収容の会場もほぼ満席になりました。近藤長官は1971年東京大学教養学部教養学科イギリス科を卒業し、同年東大大学院政治学研究科に進みましたが、在籍中に外交官試験上級に合格し、1972年に同大学院を中退し、外務省に入省されました。長年にわたり外交に携われ、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）大使、デンマーク特命全権大使等を経て、2010年（平成22年）から現職に就かれました。

今回「文化：日本復活の鍵」を演題として掲げた理由は、近藤氏が長年にわたる外交活動、特に文化外交を通じて感じたこととして、現在の日本が経済大国にありながら元気がなく、自信を喪失しているように見受けられ、その原因が何処に起因するかを考察し、疑問を解くためとのことでした。まず経済面、社会面、人間開発指数、住みよい国、自殺率、幸福度等の指標をもとに、北欧にあるデンマーク（幸福度世界一、自殺率の低さが上位）と日本を比較しました。そのギャップの要因として、日本の戦後の経済成長の偏重と文化芸術の軽視を挙げました。次に各種事例を掲げながら、文化とは何か、文化と人生、文化の役割等を提示し、諸外国の文化予算比較、日本における文化予算・文化活動について言及されました。最後に「文化：日本



復活の鍵」は、(1)日本再生の鍵は文化、(2)日本には再生に必要な文化的資源は十分にある、(3)文化資源を国の力につなげるシステムの構築が必要であると結論づけました。

文化という大きな概念を考える機会のない私達にとって、今回の近藤長官の講演をお聞きし「文化」というものについて考える糸口が掴めたような気がします。

引き続き、16:30より、会場を4階に移し、「創立70周年記念懇親会」が開催されました。来賓として文化庁長官近藤誠一氏、日本書籍出版協会事務局長樋口清一氏他。当協会OBとして、元理事長の鈴木信夫氏、歴代の事務局長他多数をお迎えしました。今回の記念懇親会は例年行われているサマーパーティーと関西地区懇親パーティーを併合して開催致しましたので、協会の会員を加え総勢200名を超える盛会となりました。

懇親会は丸善株式会社執行役員 河村収氏の司会により次の通り進行しました。

1. 理事長挨拶

…山川理事長（ユサコ株式会社取締役会長）

70年前は太平洋戦争勃発の年。その時勢に協会の産声をあげるようになった裏話や、戦後当協会が洋書の輸入を通じて日本の文化・科学技術の発展に寄与したことを紹介。また、現在はIT技術の発展により会員は未曾有の危機にあるが、会員共々この困難を乗り越え更なる日本の文化の発展に尽くそうではないか、と話されました。

2. 来賓挨拶

…鈴木信夫氏（元理事長、元丸善株式会社代表取締役社長）

70周年を迎えてお祝いの言葉と、現在あるのは過去の皆さんの努力のおかげで、これからの電子化の中で現役の先輩に負けない努力と行動を希望するとのエールを頂きました。

3. 乾杯

…新田満夫氏（株式会社雄松堂書店代表取締役会長、丸善株式会社代表取締役副会長）

当協会の今日に至るまでのお話と、当協会発足以来の会員会社の紹介があり、次4社に新田会長よりお花の贈呈がありました。

*丸善株式会社

*株式会社南江堂

*株式会社教文館

*山川商会（現、ユサコ株式会社）

4. 来賓紹介

懇親会に参加頂きました来賓、OBの紹介が行われました。

5. 写真紹介（過去の協会活動のスライドショー）

…青柳三樹男（株式会社南江堂取締役）

過去から現在に至る、当協会の諸々の活動の写真（スライドショー）が紹介されました。それぞれのスライドについて、懇親会に参加された方々から当時の思い出話や裏話などが多く紹介され、多くの参加者が往時を懐かしみ、また若い方々は改めて協会の70年の歴史に見入っておりました。

6. 祝電披露

7. 協会理事紹介

8. 中締め

…中林三十三（日本出版貿易株式会社取締役相談役）

定刻の20:00。中林相談役により、70周年記念懇親会が盛会のうちに終了したことを祝って「一本締め」が行われました。

当日はご多忙中、また猛暑のなか記念講演会／懇親会に出席頂きましたOBをはじめ多数の会員各社の皆さまに厚くお礼申し上げます。

尚、今回の70週記念事業は、前年度期首に理事会より発案され、昨年10月、鶴理事を実行委員長として、総務委員会と事務局とで実行委員会を結成いたしました。

実行委員として各種計画立案、折衝を重ねられた各委員方々の労をねぎらうと共に、かくも盛大に、無事終了することができましたことに対し厚く御礼を申し上げます。

実行委員会メンバー

委員長：鶴三郎（東亜ブック）

委員：青柳三喜男（南江堂）、中村清和（OUP）、
長谷川 実（ユサコ）、玉井ケイ子（同）、
沖 種臣（教文館）、正田 実（事務局）

長谷川 実（総務委員長）



第 18 回東京国際ブックフェア

第18回東京国際ブックフェアは、7月7日(木)～10日(日)の4日間、昨年同様に東京ビッグサイトで開催されました。会期中4日間は同会場第15回国際電子出版EXPOや、規模が大きくなり別フロアとなった国際教育ITソリューションEXPOとライセンスングジャパンも開催され、期間中、フェア全体への来場者数は昨年来場者数を上回った約100,000人が来場されたようです。今年のテーマ国はスペインでした。スペイン文化省のブースでは、スペインの新刊本や、2010年の国民文学賞各賞の受賞作品が展示され、「ヨーロッパ・コミックのヒーローたち」のコーナーでは、ヨーロッパ5カ国のヒーロー物コミックが展示されており賑わいを見せていました。

年々、規模が大きくなっている“デジタルパブリッシングフェア”は、今年から「国際電子出版EXPO」と名前を替え、こちらもかなりにぎわっていました。益々、出版のデジタル化・電子化が進行・浸透し、それに対する世間の関心は尚一層増していると痛感いたしました。

主催者のリードエグジビションも、この様にブックフェア全体の規模が大きくなった事に対応するため、ビッ

グサイト2Fを使用したりして規模拡大に対応したようですが、協会主催の洋書バーゲンコーナーは、昨年よりワゴン数が若干回復した程度の40台での展開となりました。バーゲンコーナーの位置は従来通り会場の端で、相変わらずワゴンのレイアウトにはやや不便さを感じた一方、会場内の案内用垂れ幕も大きくなり、昨年に比べればやや改善されたと思います。売上額は業者等関係者が入場する会期前半の2日間では冊数・売り上げともにアップしていましたが、一般読者も入場できる後半2日間では冊数・売り上げともにマイナスとなり、結果、会期中全体の売り上げはマイナス1.1%となりました。又、長引く円高の影響により更にバーゲン価格を下げた事も売上減の原因になっていると思いますが、前半、後半の売上の変化は何を意味しているのか。我々も考えなければならぬ事だと痛感いたしました。

会期中、バーゲンセールにお手伝いを頂きました関係者の方々には、ブース位置の改善により空調はある程度回復しましたが、猛暑の中四日間、汗だくになりながら、本当にご苦勞様でした。(JPTA.O.記)

委員会報告<レクリエーション委員会>

JAIP 第 61 回麻雀大会

2011 年 6 月 14 日 (火) シルク (高田馬場) にて
参加者 12 名 参加社数 9 社

上位の成績は下記の通りです。

順位	氏名 (社名)	1 回戦	2 回戦	3 回戦	合計
優勝	鶴 (竜) (東亜ブック)	- 3	57	29	83
準優勝	鈴木 (三友社)	17	28	- 5	40
3 位	本田 (白水社)	- 23	3	46	26
4 位	尾崎 (エイビス)	37	- 13	- 9	15
5 位	唐澤 (ゲーテ書房)	- 10	32	- 15	7
6 位	高橋 (アユソフト)	- 6	- 25	26	- 5
7 位	西野 (三友社)	23	- 15	- 13	- 5

次回は 2012 年 2 月に開催予定です。



アイルランドの岩(1)

エルゼビア・ジャパン(株) 栗原 七男

ウイスキーといえば今でこそスコットランドですが、忘れてはならないのがアイルランドです。何といてもウイスキーの元祖はアイルランドで、その製法がずっと後にスコットランドに渡ったということになっています。そこでアイルランドに行こうと思い立ちました。

ロンドン経由の飛行機でダブリンに入るのが早いのですが、ちょっと味気ないので、5月23日ロンドン一泊の後鉄道でウェールズの西端、ホリーヘッド (Holyhead) に行き、そこからフェリーでダブリンへ行く経路を選びました。ロンドンからホリーヘッドへの直通列車は少ないので、イングランドとウェールズの境目のチェスター (Chester) で乗り換え、合計4時間程の乗車の後、ホリーヘッド港に到着。高速フェリーはスウィフト (Swift) と呼ばれ、何と乗船した船名がジョナサン (Jonathan) で、続けて Jonathan Swift。どこかで聞いたアイルランド人の名前です。ジョナサン号に乗ること2時間弱、船の中を見回った後ギネス2パイントでダブリン港に到着です。半日の旅程で疲れた初日はおとなしくホテル周辺の散策で終わりました。

2日目はダブリンから鉄道で国境を越えベルファストに行き、短時間の市内散歩の後、乗り継いでさらに北上し、北アイルランドの観光拠点の一つポートラッシュ (Portlaoise) のB&Bに昼過ぎに到着。まだハイシーズンではないので街は閑散としていました。一服した後、東へ10kmほど離れたブッシュミルズ (Bushmills) 蒸留所までタクシーを飛ばしました。この蒸留所は1608年に出来た世界最古のウイスキー蒸留所ということに

なっています。平日火曜日とは言え結構大勢の愛飲家が集まっており、ツアーもほぼ15分おきに出ていて受付ロビーは大賑わいです。これまで行ったスコッチ蒸留所の中でこの賑わいに匹敵するのは、グレンモレンジとグレンフィディック位でしょうか。スコットランドの蒸留所と仕組みは変わりありませんが、蒸留を3回繰り返すのがアイリッシュの特徴と聞きました。ツアーを終わって出たところが試飲所とレストラン。うまく出来ています。ツアー券の半券でウイスキーを1杯。創業400年記念の2008年に特別に瓶詰されたレアものを注文。こういうものは日本に居てはまずありつけません。遅めの昼食を取ってからブッシュミルズの街をあとにして、アイルランドの北の果ての海岸線を歩くこと3時間、宿到着は夕暮れ時でした。途中ダンルース城 (Dunluce Castle) なる古城を見物しながら、切り立った岸壁の淵を歩き、牛や羊の群れを横目に見ながらのんびり散策でした。

3日目は朝からタクシーを飛ばし、ブッシュミルズの街を通過して更に5km程先にある世界遺産のジャイアンツ・コーズウェイ (Giant's Causeway) 見物と洒落ました。アイルランドは地質学的に興味深い場所だそうで、ここは火山の爆発の後の溶岩が固まって出来た奇観の地ということになっています。鉛筆のお化けみたいな六角柱が東になって岩をなし、海岸線を飾っています。福井の東尋坊と同じようなつくりで、スケールを大きくした感じででしょうか。5月下旬とはいえアイルランドの風は冷たく、午後早いうちに引き上げてポートラッシュに戻り、その日のうちに更にダブリンまで戻りました。(続く)



ブッシュミルズ蒸留所



世界遺産ジャイアンツ・コーズウェイ

古代日本の音楽事情

アカデミア・ミュージック(株) 平岩 寧

日本人が初めて西洋音楽の五線譜を印刷して出版したのは文明開化の明治ではなく16世紀末頃豊臣秀吉、徳川家康の戦国時代の終わりのころでした。では日本の音楽とその楽譜はどのような状況でしたのでしょうか。日本独自の記録、古事記、日本書紀などにその記述がありますがあくまで神話の伝承の域を出ていません。音に関する物的なものとしては銅鐸(祭祀用)、管楽器・弦楽器と土偶などで、よく例として紹介されるのは一弦琴を弾いている埴輪があります。これら埋蔵文化は考古学の分野にちかいです。現在では音楽考古学と言われる分野も確立されています。銅鐸・埴輪などは紀元前3世紀から後3世紀頃ですが、紀元3世紀になると『魏志』倭人伝の記述のなかに耶馬台国の葬儀に関する音楽の記述があらわれています。

4世紀以降になると海外との接触が多くなり朝鮮半島を経てアジア文化との接触が活発になりました、5世紀には新羅から音楽家(楽人)が允恭(インギョウ)天皇の葬儀のために来日して葬儀の音楽を献上しています(日本書紀)、6世紀半頃には百済から楽人の交代要員が来日しています、552年(欽明キンメイ天皇12年)には仏教が伝来し、7世紀に入ると中国江南地方の伎楽(ギガク)[仮面劇]の芸能が百済の楽人によって伝えられ、大和地方に定着し、仏教の布教にも使われました。

630年(舒明[ジョメイ]天皇2年)に第一回遣唐使が派遣され、894年(寛平[カンペイ]6年)が最後の派遣でした。遣唐使は数多くの仏教書、天文書、音楽書、楽器などを持ち帰り、高名な僧侶、技術者、職人を伴って帰国しています。当時の日本人は唐の進んだ制度、文化、物造りの技術を積極的にじぶんたちに合わせて受け入れました。

大化の改新(645年皇極[コウギョク]天皇4年=大化元年)で政治体制が変わり、その後、約半世紀ほどたって701年(大宝[タイホウ]1年)に大宝律令[タイホウリツリョウ]が制定公布されました。

大宝律令にもとづいて『雅楽寮』[ウタマイノツ

カサ、ガガクリョウ]が治部省[オサムルツカサ]の下に設置されました、これは文化庁、音楽学校のような役所であったようですが、公的な行事の場で演奏する職務もあり、後進を育てる音楽学校の機能も持っていた様であります。組織は長官・職員・教官・演奏家・工人の職種があり、学生も人数が定められていたようです。管轄する音楽の種類も国内系、海外系とに区別され、人員の数もバランスがとれていました。

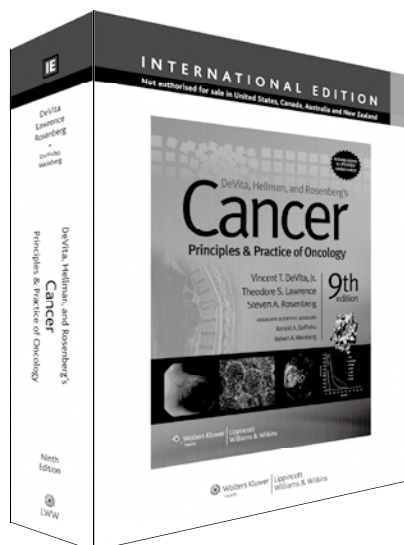
752年(天平勝宝[テンピョウシヨウホウ]4年)に東大寺大仏開眼供養が行われました、この法要は空前絶後の規模で行われました。聖武大上天皇、光明皇后、孝謙天皇の臨席のもと文武官僚が参加して10000人の僧侶がそれに加わり、開眼法要では基本曲の声明の曲を唱えたと言うことです。法要の後の大演奏会ともいえる絢爛とした音楽と舞踏が中国・朝鮮をはじめアジアの国々の楽人、日本の楽人などにより多彩に歌舞、仏教音楽などが奉納されました。この詳しい内容は様々の記録に記されております。

東大寺大仏開眼供養の4年後に聖武上皇が亡くなられ後の光明皇后は上皇が愛用されていた数々の品を東大寺に献上され正倉院に収納されました。その中に数十点の楽器が含まれていますが、現在ではその形状も変化したり、素材も変わって伝承されています。中には全く伝承されていない楽器もあります。しかし献上された楽器の多くは楽器であると同時に立派な美術工芸品として価値のあるものが多くあります。

この正倉院の宝物のなかから日本における最古の楽譜と言われる楽譜が発見されています。琵琶の楽譜で『天平琵琶譜』と言われているものです。ちなみに日本で一番古い印刷された楽譜は真言宗の声明集の楽譜で、1742年(文明4年)で高野山版と言われています。先日まで兵庫県城崎温泉の城崎美術館で特別展示されていました。

医師があらゆるタイプの様々な病期の癌と闘う上で
最も効果的な治療法をマスターすることができる

最新版



DeVita, Hellman, and Rosenberg's Cancer

Principles and Practice of Oncology, 9th edition

Editors:

Vincent T. DeVita MD

Theodore S. Lawrence MD, PhD

Steven A. Rosenberg MD, PhD

38,535 円 (税込)

2,800 ページ 図版 880 2011 年

ISBN 978-1-4511-1813-1 (International Edition)

■腫瘍学の標準的リファレンスとして世界中の医学界で好評を博してきたテキスト、改訂第9版、各患者に最適なケアを確実に提供するために必要な実践的かつ最先端の情報を、臨床腫瘍医に提供する。

■初版以来の本書の特徴であり、癌の決定版情報ソースとして世界中で受け入れられてきた主な理由は、個々の癌患者のケアにおける各治療法の役割を綿密に調和させて記述し、症状の病期ごとに治療へのアプローチを行っていることにある。多分野からのバランスのとれたアプローチを実現するため、主要な治療法を扱う各章は、外科医、腫瘍医、放射線腫瘍医によって執筆されている。

■主要な治療法を扱う各セクション冒頭には、最新情報を取り入れた短い文章を配置し、その癌の分子生物学や新情報が癌患者の治療に進歩をもたらす見通しを解説する。また、分子生物学、癌のスクリーニングと予防、緩和ケア、支持療法、及び QOL 問題の重要性が増大してきていることを一層強調している。

**NEW QUARTERLY UPDATED
BONUS COMPANION WEBSITE**



*価格は為替の変動・原価の変更などにより変更することがあります

 **Wolters Kluwer**
Health

**Lippincott
Williams & Wilkins**

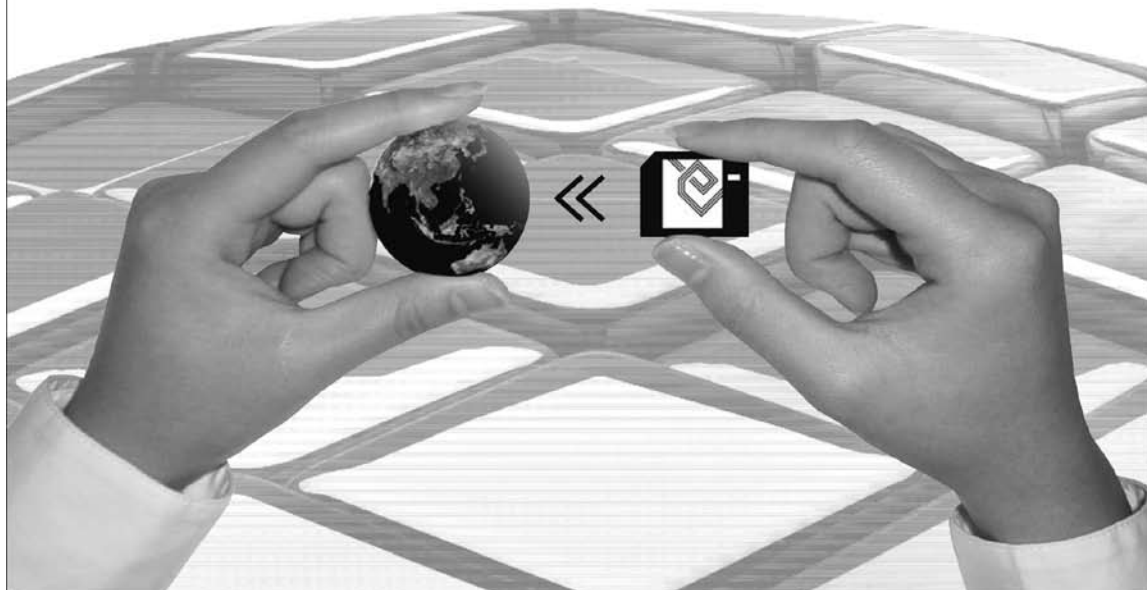
ウォルターズ・クルワー・ヘルス・ジャパン

〒113-0033 東京都文京区本郷3-23-14

TEL: 03-5689-5400 FAX: 03-5689-5402

e-mail: Toshiya.Murayama@wolterskluwer.com

インターネット時代にお客様と一緒に未来の発展をつなぐ
ユサコバリューのご提供



学術ジャーナルとE・コンテンツ

科学技術分野における質の高いE・コンテンツの提供とサポート



読む

データベース

主に自然科学分野を網羅するデータベースの提供とサポート



探す

学術情報を

バーチャルライブラリ
システム

E・コンテンツやその学術ソフト
の効率的活用と運用を支援



導く

広める

活用する

ソフトウェア

優れた学術論文の発表をお手
伝いする文献管理ソフトウェア
「EndNote」の提供とサポート



医薬系広告代理業務

医薬・医療関連企業のプロモーション活動をお手伝い

KNOWLEDGE TRANSFER

情報の大海原から真に価値のある情報を入手し活用するために
ユサコは時代の変化を見据え、知識移転を通じて新たなチャレンジをサポートします。



ユサコ株式会社

〒106-0044 東京都港区東麻布2丁目17番12号 TEL 03-3505-6161 FAX 03-3505-6281

<http://www.usaco.co.jp/>